

# 関東中学校軟式野球大会 大会特別規定

## 【競技を行うにあたって】

1. 2023年公認野球規則並びに2023年（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本特別規定による。
2. 天候不良により、会期内に日程を消化できなかった場合には、抽選で代表を決定する。
3. 使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認球M号とする。
4. 使用用具・装具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
  - (1) ヘルメットは、チームとしての色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パットの不装着、ひび割れ等）は使用できない。
  - (2) 安全上、使用するグラブの紐の長さは親指程度を目安とし、長すぎるものについては結んだり、切ったりして短くするように促す。
  - (3) マスコットバット、バットリング、鉄棒等を球場に持ち込むことを禁止する。
  - (4) リストバンドやハイカットソックスの使用を禁止する。
  - (5) 露出する部分にテーピングを使用する場合には、肌に近い色を用いる。また、試合前（攻守決定の際）に大会本部、審判員にテーピングの使用を申し出て、許可をとること。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要があるときは、大会本部の承認が必要である。
5. チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手18名以内（スコアラーを含む）とする。このほかに教員、部活動指導員2名を追加することができる。外部指導者（コーチ）が入る場合は1名とし、計21名以内とする。ただし、校長はこれ以外にベンチに入ることができる。
6. 監督、コーチ（外部コーチ）等の服装については、次の通りとする。
  - (1) 監督、コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は30番の背番号を、コーチは28番、29番の背番号をつける。なお、外部指導者登録をしているコーチは28番とする。選手と同じ色のスパイク（アップシューズも可）を履くこととする。
  - (2) 校長がベンチに入る場合は平服（ワイシャツ、または白いポロシャツ）とする。
7. 選手の服装等については、次の通りとする。
  - (1) 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す番号であり、全員が1～18番の続き番号であること。
  - (2) 手袋については白、または黒一色のものとする。医療目的以外のリストガードの使用は、禁止とする。
  - (3) 選手のスパイクは、白一色、黒一色のどちらかとする。
- ~~8. 試合の挨拶は、ベンチ前整列で行う。~~
9. 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差とする。
10. 試合時間による打ち切りは行わず、7回を完了し同点の場合はタイブレーク方式によって、勝敗を決する。
11. 本大会では、施設使用上及び安全面から球場外でのスパイク着用を禁止する。
12. 選手は頭髪、身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で参加すること。

## 【開始式について】

13. 選手集合場所では、優勝旗（代表旗）を完全にセットし、優勝旗を先頭に背の高い順に2列で行進する。なお、優勝旗は主将が持つこととする。
14. 開始式では、スパイクを着用し、ユニフォームで参加する。

## 【試合開始前】

15. 交通事情による到着遅延については大会本部で協議し、決定する。また、試合前の練習については十分に注意した上で実施し、到着時間を厳守すること。
16. その日の第1試合に出場チームの練習はベンチ前、及び外野に限り行うことができるが、スパイクの使用を禁止する。
17. 危険防止のため、トスバッティングを含めたバッティング練習は一切禁止とする。
18. 練習に参加できるのは登録選手のみとし、補助員は練習には参加できない。登録選手は、試合前の練習については試合用ユニフォームで行うこととする。
19. 打順表の交換は、第1試合は試合開始予定時刻の40分前、第2試合以降は前試合の4回終了時までとする。各チームの監督と主将は、指定された打順表（1通）を持参し、競技部担当役員と担当審判との立会いのもと攻守を決定し、注意事項の確認を行う。
20. ダブルヘッダーの場合、継続して行う場合は、試合終了後45分とし、その開始時刻の20分前に打順表を交換とする。開始時刻の決定は大会本部が行い、連絡をする。

- 2 1. 第2試合以降は試合開始時刻前でも、前の試合が終了した後、30分を目安に次の試合を開始する。
- 2 2. シートノックについては、次の通りとする。
  - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
  - (2) 時間は、通告時より7分以内とする。ただし、状況によって短縮、または省略することもある。
  - (3) 監督、コーチ、登録選手の他に、5名の補助員をつけて行うことができる。ただし、補助員は自校のユニフォーム（白無地可）、及びヘルメットを着用すること。
  - (4) ノッカーは選手と同一のユニフォーム、スパイク（アップシューズも可）を着用する。
  - (5) マウンド、及びその周辺は使用しない。
- 2 3. 前の試合が終了次第、シートノックを行うので、挨拶終了後にグラウンドに入り、ベンチ外野横に用具を置き、キャッチボールを行ってもよい。なお、シートノックが開始された際は、ベンチ内で待機する。

## 【試合中】

- 2 4. 規則適用上の疑義を申し出でる場合、要旨を端的に述べ、試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意する。
- 2 5. 本大会では、投手の投球数制限を厳格に適用する。なお、全日本軟式野球連盟が定める「1週間」を「大会期間中」と読み替える。
- 2 6. 投手（救援投手を含む）の準備投球は、初回に限り、7球以内が許される。次回からは、3球以内とする。正捕手の装具準備時において2球以上かかる場合、予備捕手は立って捕球すること。ただし、状況により、審判の判断で考慮することもある。
- 2 7. ブルベンの投球練習、交代野手のキャッチボールなどの必要以外の選手はベンチから出ない。グラウンド整備の間はベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動を認める。（給水タイム時はベンチ内で待機する。）
- 2 8. ブルベンでの投球練習は、攻守決定後、大会役員の誘導で先発バッテリーのみ行うことができる。室内練習場がある場合には、それを待たなくても練習ができる。
- 2 9. ファウルボールは、全て係員が回収する。

## 【試合後】

- 3 0. 監督は、試合終了後30分以内に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認をする。
- 3 1. 監督は、今大会の投手の投球数について確認する。

## 【その他】

- 3 2. 応援団は、次のことを守って応援をすること。なお、応援団については、監督が責任をもって指導すること。また、コロナ禍の状況を踏まえ、ベンチ内のマスクの着用や応援の仕方などについては、選手の安全を守るために大会本部の決定に従うこととする。
  - (1) 応援はあくまで自チームの応援であって、ヤジなど相手チームや選手が不快な思いを抱くような言動を禁止する。
  - (2) 紙吹雪、紙テープ、個人名を書いたのぼりを使うことを禁止とする。
  - (3) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に努めること。
  - (4) 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害したりするような応援は慎む。
  - (5) 正面スタンドにテントやパラソルを張ることを禁止する。（ベンチ端から外野側での設置は認めるものとする。また、突風等に備え錘を置くなどして必ず固定すること。）
- 3 3. 試合のスピードアップ、マナーアップ、フェアプレイについては、各チームで責任をもって指導すること。

## 【熱中症対策と選手の安全のために】

- 3 4. 熱中症対策として、うちわや冷やしたタオル等をベンチ内に持ち込むことを認める。
- 3 5. 熱中症予防として、3回、5回終了時に給水タイムを設ける。また、5回終了時及びタイブレーク方式開始前にグラウンド整備を行う。なお、暑さ指数（WBGT）が31℃に達すると予想される場合については、2回、4回、6回終了時に給水タイムを設けることとする。その場合、グラウンド整備は4回終了時に行う。最終決定は大会本部が行い、攻守決定の際に伝達をする。
- 3 6. 熱中症予防のため、守備時間が長引いた場合、イニングの途中でであっても給水タイムを設ける。20分を目安として、大会本部の判断で打者プレイ完了後に給水タイムを設ける。
- 3 7. 35と36の給水タイムは選手の安全を守るための熱中症対策であり、選手全員はベンチ内で座らせ、十分に水分や塩分補給をするように指導者は促す。